

- 健, 小林泰一郎, 青木弘, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 田沼順子, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当センターにおいて初回抗 HIV 療法の際に選択された抗 HIV 薬の変遷. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (38) 林田庸総, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 過去 10 年の東京における HIV 感染症の早期診断の動向について. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (39) 田中瑞恵, 細川真一, 大熊香織, 木内英, 田沼順子, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一, 松下竹次; HIV 感染女性から出生した児の長期予後の検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (40) 小柳円, 赤星智寛, Philippa Matthews, Henrik Kloverpris, 湯永博之, 岡慎一, Philip Goulder, 滝口雅文; サブタイプの異なる HIV-1 感染者の予後を左右する細胞障害性 T 細胞の解析. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (41) 新藤琢磨, 田沼順子, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当院における HIV 関連血小板減少性紫斑病症例の検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (42) 照屋勝治, 山元佳, 杉原淳, 新藤琢磨, 柳川泰昭, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; ニューモシスチス肺炎 (PCP) 症例の HAART 開始時期と免疫再構築症候群 (IRIS) の発生頻度に関する検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (43) 土屋亮人, 濱田哲賜, 林田庸総, 菊池嘉, 湯永博之, 岡慎一; HIV 患者におけるラルテグラビル血中濃度とトランスポーターの遺伝子多型についての検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (44) 青木孝弘, 水島大輔, 小林泰一郎, 西島健, 山内悠子, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 唾液検体を用いた定量的 RT-PCR 法によるニューモシスチス肺炎と *Pneumocystis jirovecii* 定着の鑑別. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (45) 柳川泰昭, 杉原淳, 新藤琢磨, 山元佳, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 照屋勝治, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当院における HAART 時代の肺炎球菌感染症についての検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (46) 渡辺恒二, 柳川泰昭, 杉原淳, 新藤琢磨, 山元佳, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 本田元人, 木内英, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者に対する赤痢アメーバ抗体測定の意義. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (47) 渡辺恒二, 杉原淳, 新藤琢磨, 山元佳, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 本田元人, 木内英, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者に対する赤痢アメーバ抗体測定の意義. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (48) 本田元人, 岩野真衣, 杉原淳, 新藤琢磨, 山元佳, 水島大輔, 山内悠子, 小林泰一郎, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者における虚血性心疾患. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (49) 木内英, 叶谷文秀, 山元佳, 水島大輔, 新藤琢磨, 杉原淳, 柳川泰昭, 渡辺恒二, 西島健, 青木孝弘, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 合併血友病患者における骨密度、およびその低下要因に関する研究. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (50) 叶谷文秀, Nguyen Thi Bich Ha, 田沼順子, 水島大輔, Cao Thi Thanh Thuy, Nguyen Thi Nhu Ha, 渡辺恒二, 湯永博之, Nguyen Van Kinh, 岡慎一; ハノイにおける ART 服用者の副作用および患者リテンションについての観察研究. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (51) 成戸卓也, 湯永博之, Nelson George, 阪井恵子, Carrington Mary, 岡慎一, 滝口雅文; 日本人集団における HLA クラス 1 アレルの HIV-1 ウイルス制御の解析. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (52) 杉原淳, 柳川泰昭, 新藤琢磨, 山元佳, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 関連サイトメガロウイルス脳炎 14 例の臨床的検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (53) 山元佳, 新藤琢磨, 杉原淳, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 塚田訓久, 田沼順子, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 当施設における進行性多巣性白質脳症の予後についての後方視的検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (54) 服部純子, 湯永博之, 渡辺大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 森泊代, 内田

- 和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 伊部史朗, 松田昌和, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互; 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (55) 水島大輔, 叶谷文秀, 渡辺恒二, 田沼順子, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; ハノイにおける HIV 感染者の腎機能障害に関する臨床的検討. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (56) 矢崎博久, 小林泰一郎, 山内悠子, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者の H.pylori 新規感染について. 第 26 回日本エイズ学会総会・学術集会, 2012.11 (横浜)
- (57) 木村哲; HIV 感染症治療の手引き第 17 版解説. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (58) 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 藤谷順子, 大平勝美; HIV/HCV 重複感染患者の支援特性 (第 1 報) ICF (国際生活機能分類) に基づく生活機能尺度の開発. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (59) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 藤谷順子, 大平勝美; HIV/HCV 重複感染患者の支援特性 (第 2 報) 生活機能の社会経済的格差の分析. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (60) 岩野友里, 久地井寿哉, 柿沼章子, 大平勝美; HIV/HCV 重複感染患者の支援特性 (第 3 報) 自己観察記録に基づく期間健康特性の分析. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (61) 柿沼章子, 久地井寿哉, 小俣智子, 西牧謙吾, 大平勝美; 小児がん患者等の多職種協働による病気を持つ子どもの自立を実現するための動的教育支援システム分析. 第 60 回日本学校保健学会 2013.11 (東京)
- (62) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; 「エイズ患者/HIV 感染者」に対する長期療養時代の施設受け入れ可能性～北海道介護・福祉施設調査. 第 72 回日本公衆衛生学会, 2013.10 (三重)
- (63) Kuchii T, Kakinuma A, Iwano T, Ohira K; A nationwide survey of SRH and Socio-economic positioning for HIV/AIDS patients in Japan. The International Conference on Social Stratification and Health 2013: Interdisciplinary Research and Action for Equity, 2013.8 (Tokyo)
- (64) 柿沼章子, 久地井寿哉, 井上佳世, 大平勝美; 血友病保因者の遺伝に関する支援ニーズの検討 (第一報)—薬害 HIV 感染被害者・家族を事例としたパイロット調査について—. 第 54 回日本社会医学会総会, 2013.7 (東京)
- (65) 久地井寿哉, 柿沼章子, 井上佳世, 大平勝美; 血友病保因者の遺伝に関する支援ニーズの検討 (第二報)—薬害 HIV 感染被害者・家族を事例とした支援モデルの検討—. 第 54 回日本社会医学会総会, 2013.7 (東京)
- (66) 井上佳世, 柿沼章子, 久地井寿哉, 大平勝美; 血友病家系女性の心理社会的課題と健康状況の調査研究報告 血友病保因者の遺伝に関する支援ニーズ検討 (第三報). 第 54 回日本社会医学会総会, 2013.7 (東京)
- (67) 柿沼章子, 久地井寿哉, 小俣智子, 西牧謙吾, 大平勝美; 小児がん患者等の多職種協働による病気を持つ子どもの自立を実現するための教育支援システム分析. 第 22 回日本健康教育学会学術大会, 2013.6 (千葉)
- (68) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 石射いずみ, 大平勝美; 日本の自発的無償献血 (VNRBD) に関する健康教育上の課題. 第 22 回日本健康教育学会学術大会, 2013.6 (千葉)
- (69) 柿沼章子, 久地井寿哉, 井上佳世, 大平勝美; 血友病保因者の遺伝に関する支援課題の検討 (第一報) 薬害 HIV 感染被害者・家族を事例としたパイロットスタディ. 第 39 回日本保健医療社会学会, 2013.5 (埼玉)
- (70) 久地井寿哉, 柿沼章子, 井上佳世, 大平勝美; 血友病保因者の遺伝に関する支援課題の検討 (第二報)—薬害 HIV 感染被害者・家族における支援特性・支援環境構築の検討—. 第 39 回日本保健医療社会学会, 2013.5 (埼玉)
- (71) 黒田美和, 平島園子, 伊澤麻未, 岡本学, 下司有加, 上平朝子, 白阪琢磨; 当科における長期療養を要する患者の検討. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (72) 笠井大介, 廣田和之, 伊熊素子, 小川吉彦, 矢嶋敬史郎, 渡邊大, 西田恭治, 上平朝子, 白阪琢磨; 大阪医療センターにおける HIV/HV 重複感染凝固異常患者の解析. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (73) 大久真幸, 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 大平勝美, 田中純子; 薬害 HIB・HCV 感染血友病の生活実態と課題. 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013.10 (三重)
- (74) 照屋勝治; 長期合併症予防のためにはどの ART を選択すべきか～骨代謝異常、脂質代謝異常～.

- 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (75) 照屋勝治; 日和見感染症、診断、治療の実際. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (76) 本田元人, 上村悠, 杉浦淳, 柳川泰昭, 的野多加志, 石金正裕, 山元佳, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者における動脈硬化症と炎症マーカー. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (77) 遠藤知之, 藤本勝也, 南昭子, 吉田美穂, 竹村龍, 渡部恵子, 坂本玲子, 武内阿味, 杉田純一, 重松明男, 近藤健, 橋野聡, 清水力, 豊嶋崇徳; 当院における HIV 感染者のビタミン D の検討. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (78) 高槻光寿, 曾山明彦, 夏田孔史, 日高匡章, 足立智彦, 北里周, 藤田文彦, 金高賢悟, 南恵樹, 黒木保, 江口晋; HIV/HCV 重複感染者に対する肝移植適応評価に関する検討. 第 31 回日本肝移植研究会, 2013.7 (熊本)
- (79) Sakane S, Ishida H, Fukutomi K, Kimura K, Sugimoto A, Hibino K, Tamura T, Iwasaki T, Iwasaki R, Hasegawa H, Sakakibara Y, Yamada T, Yamato M, Nakazuru S, Toyama T, Ito T, Mita E; Mechanism of renal dysfunction in the early phase of telaprevir-based triple therapy. 2013 Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, 2013.11 (Washington)
- (80) 外山隆, 石田永, 三田英治; HIV 感染症患者における B 型急性肝炎の臨床像. 第 40 回日本肝臓学会西部会ワークショップ 4 急性 B 型肝炎, 2013.12 (岐阜)
- (81) 四柳宏; 肝細胞がんの予防と対策. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (82) 四柳宏; H 前治療不応かつ IL28B minor allele の C 型慢性肝炎に対する 3 剤治療の現状. 第 49 回日本肝臓学会総会 2013.6 (東京)
- (83) 藤谷順子; 血友病性関節症用肘サポーターの開発. 第 29 回日本義肢装具学会学術大会 2013.10 (佐賀)
- (84) 大金美和, 池田和子, 塩田ひとみ, 中家奈緒美, 木下真理, 小山美紀, 伊藤紅, 田沼順子, 照屋勝治, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染血友病患者の包括的視点における支援特性のパイロット調査. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (85) 池田和子, 西条敦美, 服部久恵, 大金美和, 塩田ひとみ, 伊藤紅, 小山美紀, 木下真理, 中家奈緒美, 照屋勝治, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染症患者の長期療養支援の検討～薬害被害者の入院と連携状況について～. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (86) 九津見雅美, 池田和子, 大金美和, 内海桃絵; 地域サービス提供者における自立困難で長期療養が必要な HIV 陽性者の受け入れ経験. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 2013.11 (熊本)
- (87) 大金美和, 久地井寿哉, 柴山志穂美, 岩野友里, 柿沼章子, 大平勝美, 田中純子, 島田恵, 池田和子, 岡慎一; HIV 感染血友病等患者の医療福祉における課題と連携に関する研究. 第 72 回日本公衆衛生学会総会 2013.10 (三重)
- (88) 中根秀之, 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 田中純子, 大金美和; 血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者における精神医学的問題. 第 10 回日本うつ病学会 2013 (北九州)
- (89) 中根秀之; ICD-11 プライマリケア版の動向 新たな診断カテゴリ導入の可能性. 第 109 回日本精神神経学会 2013 (福岡)
- (90) 湯永博之; 症例から考える HIV 感染症/AIDS 診療 抗 HIV 療法に失敗した場合の対処. 第 87 回日本感染症学会学術講演会 2013.6 (横浜)
- (91) 青木孝弘, 水島大輔, 西島健, 木内英, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 低用量 ST 合剤による HIV 関連ニューモシスチス肺炎の治療の後視的検討. 第 87 回日本感染症学会学術講演会 2013.6 (横浜)
- (92) 塚田訓久, 湯永博之, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 渡辺恒二, 木内英, 矢崎博久, 田沼順子, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 当センターにおける Rilpivirine の使用成績. 第 87 回日本感染症学会学術講演会 2013.6 (横浜)
- (93) 青木孝弘, 水島大輔, 西島健, 木内英, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 潜在性結核へ治療を適用した HIV 感染者の検討. 第 87 回日本感染症学会学術講演会 2013.6 (横浜)
- (94) 湯永博之; 「HIV 感染症と Aging」長期合併症予防を考慮した ART の選択. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (95) 湯永博之; 「日本の臨床試験は必要か～エジュラントを例に考察する～」国内の多施設共同臨床研究と予期せぬ副作用症例. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (96) 山元佳, 上村悠, 的野多加志, 柳川泰昭, 石金正裕, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; CD4 数 200/ μ L 以上にも関わらずエイズ発症に至っ

- た 20 症例における検討. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (97) 上村悠, 石金正裕, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 患者の *Mycobacterium kansasii* の共感染の一例. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (98) 木内英, 叶谷文彦, 水島大輔, 西島健, 渡辺恒二, 青木孝弘, 矢崎博久, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者における骨密度、およびその低下要因. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (99) 西島健, 湯永博之, 遠藤知之, 堀場昌英, 古賀道子, 内藤俊夫, 伊戸田一郎, 鄭真徳, 藤井輝久, 高田清式, 山本政弘, 宮川寿一, 田邊嘉也, 満屋裕明, 岡慎一; テノホビル/エムトリシタピン・ロピナビル/リトナビル内服例を現行レジメンとラルテグラビル・ダルナビル/リトナビルに無作為割付する多施設共同臨床試験. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (100) 近田貴敬, Jonathan M. Carlson, 田村美子, Mohamed Ali Borghan, 成戸卓也, 端本昌夫, 村越勇人, Simon Mallal, Mina John, 湯永博之, 岡慎一, Zabrina L. Brumme, 滝口雅文; 日本人と白人における HIV-1 サブタイプ B の HLA-Associated Polymorphism の比較. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (101) 水島大輔, 田沼順子, 叶谷文彦, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; ハノイの HIV 感染者におけるテノフォビル使用による腎機能障害に対する影響. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (102) 本田元人, 上村悠, 杉原淳, 柳川泰昭, 的野多加志, 石金正裕, 山元佳, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; CD4 数 200/ μ L 以上にも関わらずエイズ発症に至った 20 症例における検討. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (103) 青木孝弘, 石金正裕, 水島大輔, 西島健, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 合播種性 MAC 症における血清学的診断の後視的検討. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (104) 木下真理, 池田和子, 塩田ひとみ, 小山美紀, 伊藤紅, 杉野祐子, 大金美和, 塚田訓久, 田沼順子, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; (独) 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターにおける外国人患者の療養状況. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (105) 塚田訓久, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 当センターにおける初回抗 HIV 療法の動向. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (106) 西島健, 照屋勝治, 塚田訓久, 杉原淳, 柳川泰昭, 的野多加志, 石金正裕, 山元佳, 水島大輔, 青木孝弘, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 初回治療における 1 日 1 回投与 Darunavir の治療成績:48 週データ. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (107) 叶谷文秀, 石坂美知代, 湯永博之, 山本健二, 岡慎一; 抗 HIV 療法における低毒性長期暴露時の骨副作用モニター—当院マラビロク治療症例の場合—. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (108) 大木桜子, 土屋亮人, 林田庸総, 酒井真依, 増田純一, 千田昌之, 湯永博之, 水野宏一, 菊池嘉, 和泉啓司郎, 岡慎一; 日本人 HIV 患者におけるダルナビル血中濃度の検討. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (109) 林田庸総, 土屋亮人, 湯永博之, 岡慎一; Deep sequencing を用いた X4 ウイルスの出現およびその後の進化の解析. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (110) 阪井恵子, 近田貴敬, 長谷川真理, 湯永博之, 岡慎一, 滝口雅文; 無治療の日本人 HIV 感染者における Gag 依存のウイルス増殖能と病態進行性の網羅的解析. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (111) 椎野禎一郎, 服部純子, 湯永博之, 吉田繁, 石ヶ坪良明, 近藤真規子, 貞升健志, 横幕能行, 古賀道子, 上田幹夫, 田邊嘉也, 渡辺大, 森治代, 南留美, 健山正男, 杉浦互; 国内感染者集団の大規模塩基配列 4: サブタイプと感染リスクによる伝播効率の差異. 第 27 回日本エイズ学会総会・学術集会 2013.11 (熊本)
- (112) 渡邊愛祈, 中里愛, 小松賢亮, 高橋卓巳, 青木孝弘, 水島大輔, 西島健, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 照屋勝治, 湯永博之, 塚田訓久 加藤温, 関由賀子, 今井公文, 菊池嘉, 岡慎一; 当院の HIV 感染者における精神科受診の実態調査. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (113) 重見麗, 服部純子, 蜂谷敦子, 湯永博之, 渡辺大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 伊藤俊宏, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰

- 之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 松田昌和, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 高田清式, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男 杉浦互; 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向. 第 27 回日本エイズ学会総会・学術集会 2013.11 (熊本)
- (114) 石金正裕, 上村悠, 杉原淳, 柳川泰昭, 的野多加志, 山元佳, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 渦永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 当院の HIV 感染者に合併した急性 C 型肝炎 36 例の臨床的検討. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (115) 渡辺恒二, 小林泰一郎, 石金正裕, 水島大輔, 西島健, 木内英, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 渦永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一, 日野原千速, 三原史規, 矢野秀朗, 村田行則, 猪狩亨; HIV 感染合併虫垂炎症例におけるアメーバ性虫垂炎の頻度とその特徴. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (116) 矢崎博久, 上村悠, 石金正裕, 的野多加志, 杉原淳, 柳川泰昭, 山元佳, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 渦永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者における *Helicobacter pylori* 新規感染と既感染者の治療経過と合併症について. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (117) 土屋亮人, 大出裕高, 林田庸総, 柿澤淳子, 佐藤裕徳, 岡慎一, 渦永博之; Env V3 領域における 11 番目 Arg 挿入と 25 番目のアミノ酸欠失および N-結合型糖鎖修飾部位の変異は HIV-1 に CXCR4 指向性を付与する. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (118) 西島健, 上村悠, 杉原淳, 柳川泰昭, 的野多加志, 石金正裕, 山元佳, 水島大輔, 青木孝弘, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 渦永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 効果・安全性に優れた抗 HIV 療法の時代における HIV 感染者の予後検討. 第 27 回日本エイズ学会学術講演会 2013.11 (熊本)
- (119) Seki Y, Kakinuma A, Kuchii T, Inoue K, Ohira K; Strategies by Japanese mothers of children with hemophilia regarding hemophilia disclosure at school. WFH, 2014.5 (Melbourne)
- (120) Inoue K, Numabe H, Kakinuma A, Kuchii T, Seki Y, Ohira K; The bleeding symptom of women in the Japanese hemophilia families. WFH, 2014.5 (Melbourne)
- (121) Kuchii T, Kakinuma A, Inoue K, Seki Y, Ohira K; Life events, support taking experiences and health readiness; psychosocial difficulties among hemophilic carriers in Japan (A pilot). WFH, 2014.5 (Melbourne)
- (122) Kakinuma A, Kuchii T, Inoue K, Seki Y, Ohira K; How we address support needs and hereditary issues in Japanese hemophilic carriers? Narrative case study based on semi-structured interviews (A pilot). WFH, 2014.5 (Melbourne)
- (123) 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 大平勝美; 血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の生活困難度の推定 (第一報) ICF コアセット (7 項目版) を用いた年齢階級別の分析. 第 40 回日本保健医療社会学会, 2014.5 (仙台)
- (124) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; 血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の生活困難度の推定 (第二報) J-SEC (新社会経済的階層分類) を用いた社会経済的地位および規定要因の検討. 第 40 回日本保健医療社会学会, 2014.5 (仙台)
- (125) 岩野友里, 柿沼章子, 久地井寿哉, 大平勝美; 血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の生活困難度の推定 (第三報) ICF サブセット (HIV/HCV: 個別疾患群項目) を用いた生活困難度の検討. 第 40 回日本保健医療社会学会, 2014.5 (仙台)
- (126) 板垣貴志, 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; 血友病保因者の遺伝に関する支援課題の検討 (第三報) —テキストマイニングによるインタビューデータ分析の試み—. 第 40 回日本保健医療社会学会, 2014.5 (仙台)
- (127) 柿沼章子, 榎本哲, 久地井寿哉, 大平勝美; 乳がんサバイバーの生活機能実態に関する ICF を活用した患者参加型研究 (第一報): 基本設計と意義～生活機能の原状回復に関連するライフ要因探索～. 第 55 回日本社会医学学会総会, 2014.7 (名古屋)
- (128) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; 血友病保因者の遺伝に関する予防行動採用に関わる準備性評価の試み～薬害 HIV 感染被害者・家族を事例としたパイロット調査より. 第 23 回日本健康教育学会大会, 2014.7 (札幌)
- (129) 板垣貴志, 久地井寿哉, 柿沼章子, 大平勝美, 岩野友里, 根岸麻步由; 肝炎患者の就労と病気の治療・療養の両立に関する相談事例の類型化. 第 23 回日本健康教育学会大会, 2014.7 (札幌)
- (130) 白坂るみ, 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; HIV 感染者の北海道福祉施設への受け入れ促進を目的とした地域実践の試み.

- 第 23 回日本健康教育学会大会, 2014. 7 (札幌)
- (131) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; 乳がんサバイバーにおける生活機能の原状回復に関するパイロットケーススタディ. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 2014.11 (宇都宮)
- (132) 岩野友里, 久地井寿哉, 柿沼章子, 大平勝美; HIV/HCV 重複感染患者の支援特性 (第 4 報) ~生活困難状況ならびに生活機能との関連. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (133) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; HIV/HV 重複感染患者の支援特性 (第 5 報) ~薬害 HIV 感染被害者の長期間生存データに基づく生存予測分析. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (134) 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 大平勝美; HIV/HV 重複感染患者の支援特性 (第 6 報) ~薬害 HIV 感染被害者の長期療養と今後の支援の方向性と提言. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (135) 照屋勝治; HIV 合併非結核性抗酸菌症の治療の実際. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (136) 塚本美鈴, 寺坂陽子, 志岐直美, 田代将人, 照屋勝治, 泉川公一, 安岡彰; 日本における HIV 感染症に伴う日和見合併症の動向ー全国 HIV 診療拠点病院のアンケート調査よりー. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (137) 片野晴隆, 比島恒和, 望月眞, 児玉良典, 小柳津直樹, 大田泰徳, 峰宗太郎, 猪狩亨, 味澤篤, 照屋勝治, 田沼順子, 菊池嘉, 岡慎一, 上平朝子, 白阪琢磨, 鯉渕智彦, 岩本愛吉, 長谷川秀樹, 岡田誠治, 安岡彰; HIV 感染者の剖検例における日和見感染症と腫瘍の頻度. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (138) 石井祥子, 宮村麻里, 小宮山優佳, 鈴木節子, 服部久恵, 池田和子, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 国立国際医療研究センター病院における HIV 陽性者の入院状況に関する診療録調査. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (139) 日高匡章, 他; 現在のガイドライン非因子である術中門脈圧からみた肝細胞癌の肝切除後合併症と予後の検証. 114 回日本外科学会定期学術集会, 2014.4 (京都)
- (140) 夏田孔史, 他; 肝細胞癌治療切除症例における予後予測因子としての非侵襲的肝線維化インデックスの有用性. 114 回日本外科学会定期学術集会, 2014.4 (京都)
- (141) Wakabayashi C, Ikushima Y, Endo T, Ikeda K, Iwasaki H, Tsurumi H, Okamoto G, Oki S, Ohtsuki T, Sato A, Kataoka R, Tarui M; Evaluation of AIDS-Related Measures by PLHIV in Japan: based on the nationwide survey. 20th International AIDS Conference, 2014.7 (Melbourne)
- (142) Wakabayashi C, Ikushima Y, Ikeda K, Iwasaki H, Endo T, Okamoto G, Tsurumi H, Oki S, Ohtsuki T, Kataoka R, Sato A, Tarui M; The employment and work environment of people living with HIV in Japan: based on the nationwide survey. 20th International AIDS Conference, 2014.7 (Melbourne)
- (143) 遠藤知之; 北海道 HIV 透析ネットワークの構築. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (144) 遠藤知之; ニューモシスチス肺炎 (PCP) の治療と PCP 発症症例における抗 HIV 療法. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (145) 吉田繁, 熊谷菜海, 松田昌和, 橋本修, 岡田清美, 伊部史朗, 和山行正, 西澤雅子, 佐藤かおり, 藤澤真一, 遠藤知之, 藤本勝也, 豊嶋崇徳, 加藤真吾, 杉浦互; 外部精度評価をもとにした HIV 薬剤耐性検査推奨法の考案. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (146) 遠藤知之, 吉田美穂, 竹村龍, 渡部恵子, 坂本玲子, 武内阿味, 杉田純一, 重松明男, 小野澤真弘, 藤本勝也, 近藤健, 橋野聡, 豊嶋崇徳; 当院における HIV 感染者の慢性腎臓病の有病率および腎機能の経時的変化の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (147) 池田和子, 若林チヒロ, 岡本学, 渡部恵子, 遠藤知之, 伊藤ひとみ, 伊藤俊広, 川口玲, 田邊嘉也, 羽柴知恵子, 横幕能行, 高山次代, 上田幹夫, 下司有加, 白阪琢磨, 木下一枝, 藤井輝久, 城崎真弓, 山本政弘, 岡慎一, 生島嗣; ブロック拠点病院と ACC における「健康と生活調査」ー HIV 治療と他疾患管理の課題ー. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (148) 岡本学, 生島嗣, 大金美和, 坂本玲子, 遠藤知之, 伊藤ひとみ, 伊藤俊広, 川口玲, 田邊嘉也, 羽柴知恵子, 横幕能行, 山田三枝子, 上田幹夫, 下司有加, 白阪琢磨, 鍵浦文子, 藤井輝久, 城崎真弓, 山本政弘, 岡慎一, 若林チヒロ; ブロック拠点病院と ACC における「健康と生活調査」ー就労と職場環境ー. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (149) 矢嶋敬史郎, 矢倉裕輝, 湯川理己, 廣田和之, 伊熊素子, 小川吉彦, 笠井大介, 渡邊大, 西田恭治, 上平朝子, 白阪琢磨; 当院における Elvitegravir/ Cobicistat/ Tenofovir/ Emtricitabine

- 配合錠の初回導入例に関する検討．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (150) 渡邊大，蘆田美紗，鈴木佐知子，湯川理己，廣田和之，伊熊素子，小川吉彦，矢嶋敬史郎，笠井大介，西田恭治，上平朝子，白阪琢磨；残存プロウイルス量と抗 HIV 療法の治療期間との関連についての検討．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (151) 湯川理己，渡邊大，廣田和之，伊熊素子，小川吉彦，矢嶋敬史郎，笠井大介，西本亜矢，矢倉裕輝，櫛田宏幸，富島公介，西田恭治，上平朝子，白阪琢磨；国立大阪医療センターにおける ABC/3TC+RAL についての検討．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (152) 矢倉裕輝，櫛田宏幸，富島公介，西本亜矢，廣田和之，伊熊素子，小川吉彦，矢嶋敬史郎，笠井大介，渡邊大，西田恭治，吉野宗宏，上平朝子，白阪琢磨；当院におけるリルピビリン塩酸塩の使用成績 第 2 報．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (153) 富島公介，櫛田宏幸，矢倉裕輝，廣田和之，伊熊素子，小川吉彦，矢嶋敬史郎，笠井大介，渡邊大，西田恭治，上平朝子，白阪琢磨；ST 合剤の脱感作療法中に発現する過敏症の発現時期と投与法に関する検討．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (154) 矢永由里子，小島勇貴，永井宏和，岩崎奈美，加藤真樹子，味澤篤，田沼順子，萩原將太郎，上平朝子，岡田誠治；HIV 感染悪性腫瘍患者の終末期医療での心理職の関わりについて現状と課題～国内アンケート調査と聞き取り調査をもとに～．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (155) 廣田和之，渡邊大，沖田典子，児玉良典，伊熊素子，小川吉彦，矢嶋敬史郎，笠井大介，西田恭治，上平朝子，白阪琢磨；脳生検で CD8 陽性細胞の浸潤を認めた HIV 感染者の 1 例．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (156) 鍛治まどか，仲倉高広，下司有加，東政美，鈴木成子，上平朝子，白阪琢磨；HIV 陽性者における内的自己・外的自己の意識化について．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (157) 笠井大介，湯川理己，廣田和之，伊熊素子，小川吉彦，矢嶋敬史郎，渡邊大，西田恭治，上平朝子，白阪琢磨；大阪医療センターにおける HIV/HCV 重複感染患者の解析．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (158) 小川吉彦，廣田和之，伊熊素子，矢嶋敬史郎，笠井大介，渡邊大，西田恭治，上平朝子，岡田誠治，白阪琢磨；HIV 陽性者における PET(positron emission tomography) 検査に関する後方視的検討．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (159) 櫛田宏幸，富島公介，矢倉裕輝，廣田和之，伊熊素子，小川吉彦，矢嶋敬史郎，笠井大介，渡邊大，西田恭治，上平朝子，白阪琢磨；Darunavir を含む治療時に持続する低レベルの血中 HIV-RNA を検出する症例に関する影響因子の探索．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (160) 小島勇貴，岩崎奈美，矢永由里子，田沼順子，小泉祐介，上平朝子，四本美保子，味澤篤，萩原將太郎，岡田誠治，永井宏和；HIV 感染悪性腫瘍患者の終末期医療についての国内アンケート調査．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (161) 伊熊素子，渡邊大，廣田和之，小川吉彦，矢嶋敬史郎，笠井大介，西田恭治，上平朝子，白阪琢磨；抗 HIV 療法中に関節炎性乾癬を発症した 1 例．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (162) 平石哲也，池田裕喜，北川紗里香，田村知大，黄世揚，山田典栄，小林稔，福田安伸，馬場哲，松永光太郎，松本伸行，奥瀬千晃，伊東文生，四柳宏，安田清美，野崎昭人，田中克明，鈴木通博；前治療無効かつ IL28B Minor の C 型慢性肝炎に対するプロテアーゼ阻害薬併用 3 剤治療の現状．第 50 回日本肝臓学会総会，2014.5 (東京)
- (163) 四柳宏；HIV に合併したウイルス肝炎の治療～進歩と課題～．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (164) 大岸誠人，四柳宏，堤武也，湯永博之，森屋恭爾，小池和彦；HIV と HCV の重複感染を有する血友病患者における、複数の遺伝子型の HCV バリエーションの潜在的な混合感染に関する次世代シーケンサーを用いた検討．第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，2014.12 (大阪)
- (165) 藤谷順子，藤本雅史，早乙女郁子，久地井寿哉，岩野友里，柿沼章子，大平勝美；ICF の core set(generic set) を用いた HIV 感染血友病患者の生活機能評価の試み．第 51 回日本リハビリテーション医学会，2014.6 (愛知)
- (166) Ogane M，Kuchii T，Kanaya F，Shibayama S，Kakinuma A，Ohira K，Tanaka J，Shimada M，Ikeda K，Oka S；Barrier assessment in establishing comprehensive client-level coordination for treatment and medical welfare of people living with hemophilia and HIV/AIDS in Japan. WFH, 2014.5 (Melbourne)
- (167) 大金美和，塩田ひとみ，小山美紀，柴山志穂美，

- 久地井寿哉, 岩野友里, 柿沼章子, 大平勝美, 池田和子, 湯永博之, 岡慎一; HIV 感染血友病患者の健康関連 QOL の実態調査. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (168) 塩田ひとみ, 大金美和, 渡部恵子, 坂本玲子, 伊藤ひとみ, 川口玲, 石塚さゆり, 山田三枝子, 高山次代, 羽柴知恵子 鍵浦文子, 木下一枝, 長與由紀子, 城崎真弓, 池田和子, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染血友病患者の医療と福祉の連携へのアプローチ～療養支援アセスメントシートの検討～. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (169) 杉野祐子, 池田和子, 大金美和, 伊藤紅, 小山美紀, 塩田ひとみ, 木下真理, 中家奈緒美, 菊池嘉, 岡慎一; ACC に通院中の高齢 HIV 感染者の現状. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (170) 久津見雅美, 内海桃絵, 池田和子, 大金美和; HIV 陽性者へのケア経験別・職種別にみた標準予防策の実施状況～第 1 報: 入所施設の特徴～. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (171) 内海桃絵, 久津見雅美, 池田和子, 大金美和; HIV 陽性者へのケア経験別・職種別にみた標準予防策の実施状況～第 2 報: 在宅看護・介護の特徴～. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (172) Tanaka K, Iso N, Sagari A, Tokunaga A, Iwanaga R, Nakane H, Ohta Y, Tanaka G; Geriatric Health Services Facility Employee's Burnout and Mental Health. World Association of Social Psychiatry Jubilee Congress Programme : 128-129, 2014
- (173) Nonaka S, Koshimoto R, Kinoshita H, Moon, D.S., Otsuru A, Bahn G., Shibata Y, Ozawa H, Nakane H; Mental Health Conditions in Korean Atomic Bomb Survivors. World Association of Social Psychiatry Jubilee Congress Programme : 243-244, 2014
- (174) 湯永博之; 「HIV 感染症における最新の治療戦略」 HIV/HBV 共感染における TDF を含む ART の意義. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 2014.6 (福岡)
- (175) 湯永博之; 「臨床医が知っておきたい HIV 感染症の治療」最新の抗 HIV 治療ガイドラインの解説. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 2014.6 (福岡)
- (176) 石金正裕, 青木孝弘, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 播種性ノカルジア症と PML が疑われた AIDS の一例. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 2014.6 (福岡)
- (177) 西島健, 湯永博之, 柳川泰昭, 水島大輔, 青木孝弘, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 新たな C 型肝炎感染が注射薬物を使用しない HIV 感染男性同性愛者で増加. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 2014.6 (福岡)
- (178) 柳川泰昭, 田沼順子, 照屋勝治, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一, 片野晴隆; 当院で経験した HIV 感染合併原発性滲出性リンパ腫の 4 例. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 2014.6 (福岡)
- (179) 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一. MRI にて異常を認めたエイズ脳症 11 例に関する臨床的検討. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 2014.6 (福岡)
- (180) 塚田訓久, 湯永博之, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 源河いくみ, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 当センターにおける Elvitegravir/Cobicistat/Tenofovir/Emtricitabine 配合錠の使用成績. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 2014.6 (福岡)
- (181) 湯永博之; HIV 感染症「新・治療の手引き」Regimen 変更時の留意点と変更後の Follow-up. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (182) 湯永博之; HIV 感染症と Aging 「Aging と長期合併症」～高齢化の現状と長期治療の問題点～. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (183) 湯永博之; ART の将来展望 ～ INSTI based Regimen の臨床的有用性～. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (184) 湯永博之; 抗 HIV 治療のターニングポイント～ドルテグラビルの臨床的位置づけ～. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (185) 椎野禎一郎, 服部純子, 湯永博之, 吉田繁, 石ヶ坪良明, 近藤真規子, 貞升健志, 横幕能行, 古賀道子, 上田幹夫, 田邊嘉也, 渡邊大, 森治代, 南留美, 健山正男, 杉浦互; 国内感染者集団の大規模塩基配列解析 5: MSM コミュニティへのサブタイプ B 感染の動態. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (186) 仲里愛, 木内英, 渡邊愛祈, 小松賢亮, 大金美和, 池田和子, 小林泰一郎, 柳川泰昭, 水島大輔, 源河いくみ, 西島健, 青木孝弘, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 照屋勝治, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 認知機能低下が疑われた患者における認知障害の関連因子の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (187) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 服部純子, 湯永博之, 渡邊大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南留

- 美, 吉田繁, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 伊藤俊広, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 岩谷靖雅, 松田昌和, 重見麗, 保坂真澄, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 高田清武, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互; 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (188) 青木孝弘, 柴田怜, 柳川泰昭, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当センターにおける Raltegravir の耐性症例の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (189) 青木孝弘, 柴田怜, 柳川泰昭, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当センターにおける Rilpivirine 耐性症例の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (190) 大木桜子, 土屋亮人, 林田庸総, 増田純一, 湯永博之, 菊池嘉, 和泉啓司郎, 岡慎一; 日本人 HIV 患者におけるラルテグラビル薬物動態の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (191) 土屋亮人, 林田庸総, 濱田哲暢, 加藤真吾, 菊池嘉, 岡慎一, 湯永博之; HIV 患者におけるラルテグラビル髄液中濃度と薬物トランスポータの遺伝子多型についての検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (192) 塚田訓久, 増田純一, 赤沢翼, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 木内英, 渡辺恒二, 本田元人, 矢崎博久, 源河いくみ, 田沼順子, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当センターにおける初回抗 HIV 療法の動向と新規インテグラーゼ阻害薬の使用経験. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (193) 西島健, 田中紀子, 松井優作, 川崎洋平, 古川恵太郎, 柴田怜, 柳川泰昭, 谷崎隆太郎, 小林泰一郎, 水島大輔, 青木孝弘, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 尿 $\beta 2$ ミクログロブリンの TDF 腎障害の予測における有用性の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (194) 柳川泰昭, 田里大輔, 照屋勝治, 柴田怜, 古川恵太郎, 谷崎隆太郎, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当院における ART 時代の Kaposi 肉腫症例の治療成績・予後. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (195) 柴田怜, 青木孝弘, 西島健, 古川恵太郎, 谷崎隆太郎, 柳川泰昭, 林泰一郎, 水島大輔, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染症合併ニューモシスチス肺炎の治療におけるステロイド併用期間の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (196) 阪井恵子, 近田貴敬, 長谷川真理, 湯永博之, 岡慎一, 滝口雅文; 無治療の日本人 HIV 感染者における Gag-Protease 依存のウイルス増殖能と病態進行性の網羅的解析. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (197) 林田庸総, 土屋亮人, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 血友病の HIV slow progressor 6 例を対象とした deep sequencing による tropism 解析. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (198) 木内英, 加藤真吾, 細川真一, 田中瑞穂, 中西美紗緒, 定月みゆき, 田沼順子, 湯永博之, 矢野哲, 菊池嘉, 岡慎一; 成人と新生児における AZT リン酸化物細胞内濃度の比較. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (199) 水島大輔, 田沼順子, 湯永博之, 菊池嘉, Nguyen K, 岡慎一; ハノイの腎機能障害を有する HIV 感染者におけるテノフォビル使用による腎機能予後. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (200) 木内英, 湯永博之, 水島大輔, 西島健, 渡辺恒二, 青木孝弘, 矢崎博久, 本田元人, 田沼順子, 源河いくみ, 塚田訓久, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; プロテアーゼ阻害薬の骨密度低下メカニズムに関する研究. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (201) 本田元人, 遠藤元誉, 古川恵太郎, 柴田怜, 谷崎隆太郎, 柳川泰昭, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 木内英, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 尾池雄一, 岡慎一; HIV 感染者における新たな慢性炎症マーカーと動脈硬化症. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (202) 渡邊愛祈, 仲里愛, 小松賢亮, 高橋卓巳, 木内英, 大金美和, 池田和子, 田沼順子, 照屋勝治, 塚田訓久, 湯永博之, 加藤温, 関由賀子, 今井公文, 菊池嘉, 岡慎一; 当院の HIV 感染者における適応障害患者の HIV 治療状況とカウンセリング介入についての検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)

- (203) 小松賢亮, 仲里愛, 渡邊愛祈, 塩田ひとみ, 大金美和, 西島健, 矢崎博久, 田沼順子, 照屋勝治, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染者のターミナルケア —HIV 治療に消極的な感染者との心理面接—. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (204) 土屋亮人, 湯永博之, 岡慎一; 新規に開発されたイムノクロマトグラフィ法による第 4 世代 HIV 迅速診断試薬の臨床的有用性の検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (205) 中家奈緒美, 小山美紀, 木下真里, 塩田ひとみ, 伊藤紅, 杉野祐子, 大金美和, 池田和子, 塚田訓久, 田沼順子, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; 当院における受診を中断した HIV 感染症患者の傾向. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (206) 木下真里, 池田和子, 中家奈緒美, 塩田ひとみ, 小山美紀, 伊藤紅, 杉野祐子, 大金美和, 塚田訓久, 田沼順子, 照屋勝治, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; (独) 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターにおける外国人患者対応—初診時のコミュニケーションについて—. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (207) 谷崎隆太郎, 青木孝弘, 西島健, 古川恵太郎, 柴田怜, 柳川泰昭, 小林泰一郎, 水島大輔, 渡辺恒二, 木内英, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 患者の梅毒治療におけるアモキシシリンの治療効果. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (208) 渡辺恒二, 永田尚義, 柳川泰昭, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 木内英, 本田元人, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 感染患者における赤痢アメーバ潜伏感染についての検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (209) 小林泰一郎, 渡辺恒二, 古川恵太郎, 柴田怜, 柳川泰昭, 谷崎隆太郎, 水島大輔, 西島健, 青木孝弘, 木内英, 本田元人, 田沼順子, 照屋勝治, 塚田訓久, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; HIV 合併アメーバ性肝膿瘍の発症リスクとしての HLA 対立遺伝子の解析. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (210) 佐藤麻希, 早川史織, 増田純一, 和泉啓司郎, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一; Dolutegravir と Rilpivirine による Small tablet への剤形変更がアドヒアランスの改善につながった症例. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (211) 古川恵太郎, 柴田怜, 谷崎隆太郎, 水島大輔, 西島健, 渡辺恒二, 青木孝弘, 本田元人, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 木内英, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一; 免疫再構築症候群による縦隔リンパ節炎を発症し、気管・食道瘻孔形成を認めたが保存的に治療し得た非結核性抗酸菌症の 1 例. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (212) 本田元人, 中川堯, 山本正也, 谷崎隆太郎, 柴田怜, 古川恵太郎, 柳川泰昭, 小林泰一郎, 水島大輔, 西島健, 木内英, 青木孝弘, 渡辺恒二, 矢崎博久, 田沼順子, 塚田訓久, 湯永博之, 照屋勝治, 菊池嘉, 原久男, 岡慎一; 血友病 A に合併した狭心症に対し冠動脈形成術後の抗血小板療法 2 剤併用期間短縮を目的として Zotarolimus 薬剤溶出ステントを用いた一例. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)
- (213) Rahman M.A, Kuse N, Murakoshi H, Chikata T, Tran V.G, Gatanaga H, Oka S, Takiguchi M; Different effects of drug-resistant mutations on CTL recognition between HIV-1 subtype B and subtype A/E infections. 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014.12 (大阪)

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

2) 研究成果の刊行に関する一覧

a. 論文.....404 頁

((70) ~ (100) の別刷は H26 総括・分担研究報告書に添付)

- (1) 木村哲; エイズの発見から 30 年. *BIO Clinica* 27 (3) : 217, 2012
- (2) 木村哲; エイズ予防指針の見直しの概要. *Confronting HIV* 2012 41: 10, 2012
- (3) 木村哲; HIV 感染症「治療の手引き」<第 15 版>. *Confronting HIV* 2012 41: 11-13, 2012
- (4) 木村哲; HIV 感染症を取り巻く現状. *薬事* 54 (9) : 1407-1413, 2012
- (5) 曾山明彦, 高槻光寿, 日高匡章, 村岡いづみ, 江口晋; HIV/HCV 重複感染患者における肝予備能評価の重要性. *肝臓* 53 (7) : 403-408, 2012
- (6) 高槻光寿, 江口晋, 曾山明彦, 黒木保, 兼松隆之, 白阪琢磨, 山本政弘, 湯永博之, 立川夏夫, 釘山有希, 八橋弘; 血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者の予後. *肝臓* 53 (10) : 586-590, 2012
- (7) Yanagimoto S, Yotsuyanagi H, Kikuchi Y, Tsukada K, Kato M, Takamatsu J, Hige S, Chayama K, Moriya K, Koike K; Chronic hepatitis B in patients coinfecting with human immunodeficiency virus in Japan: a retrospective multicenter analysis. *J Infect Chemother* 18: 883-90, 2012
- (8) Ohnishi M, Nakao R, Kawasaki R, Nitta A, Hamada Y, Nakane H; Utilization of bar and izakaya-pub establishments among middle-aged and elderly Japanese men to mitigate stress. *BMC Public Health* 12: 446, 2012
- (9) Tsuchiya M, Kawakami N, Ono Y, Nakane Y, Nakamura Y, Fukao A, Tachimori H, Iwata N, Uda H, Nakane H, Watanabe M, Oorui M, Naganuma Y, Furukawa A. T, Kobayashi M, Ahiko T, Takeshima T, Kikkawa T; Impact of mental disorders on work performance in a community sample of workers in Japan: The World Mental health Japan Survey 2002-2005. *Psychiatry Res.* 30 198 (1) : 140-5, 2012
- (10) Hanzawa S, Nosaki A, Yatabe K, Nagai Y, Tanaka G, Nakane H, Nakane Y; Study of understanding the internalized stigma of schizophrenia in psychiatric nurses in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci.* 66: 113-120, 2012
- (11) 中根秀之; 被ばくの精神ストレス. *チャイルドヘルス* 15 (9) : 35-39, 2012
- (12) 中根秀之; 長崎の原子爆弾被爆による精神健康への影響. *日本社会精神医学会雑誌* 21 (2) : 215-221, 2012
- (13) Akahoshi T, Chikata T, Tamura Y, Gatanaga H, Oka S, Takiguchi M; Selection and accumulation of an HIV-1 escape mutant by three types of HIV-1-specific cytotoxic T lymphocytes recognizing wild-type and/or escape mutant epitopes. *Journal of Virology* 86: 1971-1981, 2012
- (14) Nishijima T, Tsukada K, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; Efficacy and safety of once-daily ritonavir-boosted darunavir plus abacavir/lamivudine for treatment-naïve patients: a pilot study. *AIDS* 26: 649-651, 2012
- (15) Hayashida T, Gatanaga H, Takahashi Y, Negishi F, Kikuchi Y, Oka S; Trends in early and late diagnosis of HIV-1 infections in Tokyoites from 2002 to 2010. *International Journal of Infectious Diseases* 16: e172-177, 2012
- (16) Nishijima T, Gatanaga H, Komatsu H, Tsukada K, Shimbo T, Aoki T, Watanabe K, Kinai E, Honda H, Tanuma J, Yazaki H, Honda M, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S; Renal function declines more in tenofovir- than abacavir-based antiretroviral therapy in low-body weight treatment-naïve patients with HIV infection. *PLoS One* 7: e29977, 2012
- (17) Hasan Z, Carlson JM, Gatanaga H, Le AQ, Brumme CJ, Oka S, Brumme ZL, Ueno T; Minor contribution of HLA class I-associated selective pressure to the variability of HIV-1 accessory protein Vpu. *Biochemical Biophysical Research Communications* 421: 291-295, 2012
- (18) Naruto T#, Gatanaga H#, Nelson G, Sakai K, Carrington M, Oka S, Takiguchi M; HLA class I-mediated control of HIV-1 in the Japanese population, in which the protective HLA-B*57 and HLA-B*27 alleles are absent. *Journal of Virology* 86: 10870-10872, 2012 (# contributed equally)
- (19) Hamada Y, Nishijima T, Watanabe K, Komatsu H, Tsukada K, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; High incidence of renal stones among HIV-infected patients on ritonavir-boosted atazanavir than in those receiving other protease inhibitor-containing antiretroviral therapy. *Clinical Infectious Diseases* 55: 1262-1269, 2012
- (20) Nishijima T, Komatsu H, Higasa K, Takano M, Tsuchiya K, Hayashida T, Oka S, Gatanaga H; Single nucleotide polymorphisms in ABCC2 associated with tenofovir-induced kidney tubular dysfunction in Japanese patients with HIV-1 infection: a pharmacogenetic study. *Clinical Infectious diseases* 55: 1558-1567, 2012
- (21) Matthews PC, Koyanagi M, Kloverpris HN, Harndahl M, Stryhn A, Akahoshi T, Gatanaga H, Oka S, Juarez Molina C, Valenzuela Ponce H, Avila Rios S, Cole D, Carlson J, Payne RP, Ogwu A, Bere A, Ndung'u T, Gounder K, Chen F, Riddell L, Luzzi G, Shapiro R, Brander C, Walker B, Sewell AK, Reyes Teran G, Heckerman D, Hunter E, Buus S, Takiguchi M, Gpulder PJ; Differential clade-specific HLA-B*3501 association with HIV-1 disease outcome is linked to immunogenicity of a single Gag epitope. *Journal of Virology* 86: 12643-12654, 2012

- (22) Nishijima T, Yazaki H, Hinoshita F, Tasato D, Hoshimoto K, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; Drug-induced acute interstitial nephritis mimicking acute tubular necrosis after initiation of tenofovir-containing antiretroviral therapy in patient with HIV-1 infection. *Internal Medicine* 51: 2469-2471, 2012
- (23) Kinai E, Hosokawa S, Gomibuchi H, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; Blunted fetal growth by tenofovir in late pregnancy. *AIDS* 26: 2119-2120, 2012
- (24) Honda H, Gatanaga H, Aoki T, Watanabe K, Yazaki H, Tanuma J, Tsukada K, Honda M, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S; Raltegravir can be used safely in HIV-1-infected patients treated with warfarin. *International Journal of STD and AIDS* 23: 903-904, 2012
- (25) 木村哲; 日本における HIV 感染症の動向と現状 シリーズを終えるにあたって. *医薬の門* 53(1): 7-8, 2013
- (26) 木村哲; 抗 HIV 薬にとって代わるワクチンはできないものか. *AVDA ニュースレター* 7: 2, 2013
- (27) Chen D-S, Locarnini S, Wait S, Bae SH, Chen PJ, Fung JY, Kim HS, Lu SN, Sung J, Tanaka J, Wakita T, Ward J, Wallace J; Report from a Viral Hepatitis Policy Forum on implementing the WHO framework for global action on viral hepatitis in North Asia. *Journal of Hepatology* 59(5): 1073-1080, 2013
- (28) Kumada T, Toyoda H, Kiriyama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Tanaka J; Characteristics of elderly hepatitis C virus-associated hepatocellular carcinoma patients. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 28(2): 357-364, 2013
- (29) Kumada T, Toyoda H, Tada T, Kiriyama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Niinomi T, Yasuda S, Ando Y, Yamamoto K, Tanaka J; Effect of nucleos(t)ide analogue therapy on hepatocarcinogenesis in chronic hepatitis B patients: a propensity score analysis. *Journal of Hepatology* 58(3): 427-433, 2013
- (30) Shima T, Uto H, Ueki K, Takamura T, Kohgo Y, Kawata S, Yasui K, Park H, Nakamura N, Nakatou T, Tanaka N, Umemura A, Mizuno M, Tanaka J, Okanoue T; Clinicopathological features of liver injury in patients with type 2 diabetes mellitus and comparative study of histologically proven nonalcoholic fatty liver disease with or without type 2 diabetes mellitus. *Journal of Gastroenterology* 48(4): 515-525, 2013
- (31) 松尾順子, 片山恵子, 中島歩, 頼岡徳在, 田中純子, 広島透析患者肝炎 Study Group; 血液透析患者における肝炎ウイルス感染率と生命予後. *日本透析医学会雑誌* 28(1): 161-166, 2013
- (32) 仁科惣治, 栗原淳子, 則安俊昭, 糸島達也, 山本和秀, 田中純子, 日野啓輔; 岡山県における肝炎ウイルス検診陽性者の医療機関受診等に関する追跡調査. *肝臓* 54(1): 84-86, 2013
- (33) Matsushima H, Soyama A, Takatsuki M, Hidaka M, Muraoka I, Kuroki T, Eguchi S; The outcomes of patients with severe hyperbilirubinemia following living donor liver transplantation. *Dig Dis Sci* 58(5): 1410-4, 2013
- (34) Matsuzaki T, Tatsuki I, Otani M, Akiyama M, Ozawa E, Miuma S, Miyaaki H, Taura N, Hayashi T, Okudaira S, Takatsuki M, Isomoto H, Takeshima F, Eguchi S, Nakao K; Significance of hepatitis B virus core-related antigen and covalently closed circular DNA levels as markers of hepatitis B virus re-infection after liver transplantation. *J Gastroenterol Hepatol* 28(7): 1217-22, 2013
- (35) Eguchi S, Takatsuki M, Soyama A, Torashima Y, Tsuji A, Kuroki T; False positivity for the human immunodeficiency virus antibody after influenza vaccination in a living donor for liver transplantation. *Liver Transpl* 19(6): 666, 2013
- (36) Eguchi S; Is low central venous pressure effective for postoperative care after liver transplantation? *Surg Today* 43(7): 828-9, 2013
- (37) Takatsuki M, Soyama A, Eguchi S; Liver transplantation for HIV/hepatitis C virus co-infected patients. *Hepatol Res* 44(1): 17-21, 2013
- (38) Egawa H, Nakanuma Y, Maehara Y, Uemoto S, Eguchi S, Sato Y, Shirabe K, Takatsuki M, Mori A, Yamamoto M, Tsubouchi H; Disease recurrence plays a minor role as a cause for retransplantation after living-donor liver transplantation for primary biliary cirrhosis: A multicenter study in Japan. *Hepatol Res* 43(5): 502-7, 2013
- (39) Tanaka T, Takatsuki M, Soyama A, Torashima Y, Kinoshita A, Yamaguchi I, Adachi T, Kitasato A, Kuroki T, Eguchi S; Evaluation of immune function under conversion from Prograf to Advagraf in living donor liver transplantation. *Ann Transplant* 18: 293-8, 2013
- (40) Higashitani K, Kanto T, Kuroda S, Yoshio S, Matsubara T, Kakita N, Oze T, Miyazaki M, Sakakibara M, Hiramatsu N, Mita E, Imai Y, Kasahara A, Okuno A, Takikawa O, Hayashi N, Takehara T; Association of enhanced activity of indoleamine 2,3-dioxygenase in dendritic cells with the induction of regulatory T cells in chronic hepatitis C infection. *J Gastroenterol* 48(5): 660-670, 2013
- (41) Harada N, Hiramatsu N, Oze T, Yamada R, Kurokawa M, Miyazaki M, Yakushijin T, Miyagi T, Tatsumi T, Kiso S, Kanto T, Kasahara A, Oshita M, Mita E, Hagiwara H, Inui Y, Katayama K, Tamura S, Yoshihara H, Imai Y, In-

- oue A, Hayashi N, Takehara T; Incidence of hepatocellular carcinoma in HCV-infected patients with normal alanine aminotransferase levels categorized by Japanese treatment guidelines. *J Gastroenterol* 48(4): 535-543, 2013
- (42) 福田安伸, 長瀬良彦, 北川紗里香, 路川陽介, 平石哲也, 公文大輔, 黄世揚, 馬場哲, 山田典栄, 小林稔, 池田裕喜, 高橋秀明, 松永光太郎, 松本伸行, 奥瀬千晃, 四柳宏, 鈴木通博; C 型慢性肝炎 SVR 例における HCV-RNA の一過性陽性例の検討. *肝臓* 54: 294-297, 2013
- (43) 岡野美紀, 奥瀬千晃, 四柳宏, 島順子, 服部伸洋, 重福隆太, 野口洋平, 初谷守朗, 中原一有, 池田裕喜, 高橋秀明, 松永光太郎, 松本伸行, 石井俊哉, 佐藤明, 福田安伸, 小池和彦, 鈴木通博, 伊東文生; 甲状腺機能異常を伴う C 型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン併用療法. *肝臓* 54: 731-740, 2013
- (44) 吉田渡, 石川秀俊, 大金美和, 表田和子, 佐藤千尋, 藤谷順子; 血友病包括外来の取り組み—患者参加型の装具処方について—. *PO アカデミージャーナル* 20(4): 225-227, 2013
- (45) Hanzawa S, Bae J.K., Bae Y.J., Chae M.H., Tanaka H, Nakane H, Ohta Y, Zhao X, Iizuka H, Nakane Y; Psychological impact on caregivers traumatized by the violent behavior of a family member with schizophrenia. *Asian Journal of Psychiatry* 6: 46-51, 2013
- (46) 半澤節子, 中根秀之; 自殺予防の取り組みとアンチスティグマ活動—メンタルヘルス・リテラシー研究から考える—. *精神科* 22(3): 278-284, 2013
- (47) 中根秀之; ICD-11 プライマリケア版の動向. *精神神経学雑誌* 115(1): 53-59, 2013
- (48) Nishijima T, Gatanaga H, Komatsu H, Takano M, Ogane M, Ikeda K, Oka S; High Prevalence of Illicit Drug Use in Men Who Have Sex with Men with HIV-1 Infection in Japan. *PLoS One* 8(12): e81960, 2013
- (49) Mizushima D, Tanuma J, Kanaya F, Nishijima T, Gatanaga H, Lam NT, Dung NT, Kinh NV, Kikuchi Y, Oka S; WHO antiretroviral therapy guidelines 2010 and impact of tenofovir on chronic kidney disease in Vietnamese HIV-infected patients. *PLoS One* 8(11): e79885, 2013
- (50) Nishijima T, Hamada Y, Watanabe K, Komatsu H, Kinai E, Tsukada K, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; Ritonavir-boosted darunavir is rarely associated with nephrolithiasis compared with ritonavir-boosted atazanavir in HIV-infected patients. *PLoS One* 8(10): e77268, 2013
- (51) Watanabe K, Murakoshi H, Tamura Y, Koyanagi M, Chikata T, Gatanaga H, Oka S, Takiguchi M; Identification of cross-clade CTL epitopes in HIV-1 clade A/E-infected individuals by using the clade B overlapping peptides. *Microbes Infect* 15(13): 874-86, 2013
- (52) Nishijima T, Gatanaga H, Shimbo T, Komatsu H, Endo T, Horiba M, Koga M, Naito T, Itoda I, Tei M, Fujii T, Takada K, Yamamoto M, Miyakawa T, Tanabe Y, Mitsuya H, Oka S; SPARE study team; Switching tenofovir/emtricitabine plus lopinavir/r to raltegravir plus Darunavir/r in patients with suppressed viral load did not result in improvement of renal function but could sustain viral suppression: a randomized multicenter trial. *PLoS One* 8(8): e73639, 2013
- (53) Nishijima T, Gatanaga H, Komatsu H, Takano M, Ogane M, Ikeda K, Oka S. Illicit drug use is a significant risk factor for loss to follow up in patients with HIV-1 infection at a large urban HIV clinic in Tokyo. *PLoS One* 8(8): e72310, 2013
- (54) Tanuma J, Sano K, Teruya K, Watanabe K, Aoki T, Honda H, Yazaki H, Tsukada K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S. Pharmacokinetics of rifabutin in Japanese HIV-infected patients with or without antiretroviral therapy. *PLoS One* 8(8): e70611, 2013
- (55) Tsuchiya K, Ode H, Hayashida T, Kakizawa J, Sato H, Oka S, Gatanaga H; Arginine insertion and loss of N-linked glycosylation site in HIV-1 envelope V3 region confer CXCR4-tropism. *Sci Rep* 3: 2389, 2103
- (56) Iijima K, Okudaira N, Tamura M, Doi A, Saito Y, Shimura M, Goto M, Matsunaga A, Kawamura YI, Otsubo T, Dohi T, Hoshino S, Kano S, Hagiwara S, Tanuma J, Gatanaga H, Baba M, Iguchi T, Yanagita M, Oka S, Okamura T, Ishizaka Y; Viral protein R of human immunodeficiency virus type-1 induces retrotransposition of long interspersed element-1. *Retrovirology* 10: 83, 2013
- (57) Hamada Y, Nagata N, Shimbo T, Igari T, Nakashima R, Asayama N, Nishimura S, Yazaki H, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Akiyama J, Ohmagari N, Uemura N, Oka S; Assessment of antigenemia assay for the diagnosis of cytomegalovirus gastrointestinal diseases in HIV-infected patients. *AIDS Patient Care STDS* 27(7): 387-91, 2103
- (58) Motozono C, Miles JJ, Hasan Z, Gatanaga H, Meribe SC, Price DA, Oka S, Sewell AK, Ueno T; CD8(+) T cell cross-reactivity profiles and HIV-1 immune escape towards an HLA-B35-restricted immunodominant Nef epitope. *PLoS One* 8(6): e66152, 2013
- (59) Gatanaga H, Murakoshi H, Hachiya A, Hayashida T, Chikata T, Ode H, Tsuchiya K, Sugiura W, Takiguchi M,

- Oka S. Naturally selected rilpivirine-resistant HIV-1 variants by host cellular immunity. *Clin Infect Dis* 57(7): 1051-5, 2013
- (60) Mizushima D, Nishijima T, Gatanaga H, Tsukada K, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S. Preemptive therapy prevents cytomegalovirus end-organ disease in treatment-naïve patients with advanced HIV-1 infection in the HAART era. *PLoS One* 8(5): e65348, 2013
- (61) Nishijima T, Komatsu H, Teruya K, Tanuma J, Tsukada K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; Once-daily darunavir/ritonavir and abacavir/lamivudine versus tenofovir/emtricitabine for treatment-naïve patients with a baseline viral load of more than 100000copies/ml. *AIDS* 27(5): 839-42, 2013
- (62) Yanagisawa K, Tanuma J, Hagiwara S, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S. Epstein-Barr viral load in cerebrospinal fluid as a diagnostic marker of central nervous system involvement of AIDS-related lymphoma. *Intern Med* 52(9): 955-9, 2013
- (63) Nishijima T, Takano M, Ishisaka M, Komatsu H, Gatanaga H, Kikuchi Y, Endo T, Horiba M, Kaneda S, Uchiumi H, Koibuchi T, Naito T, Yoshida M, Tachikawa N, Ueda M, Yokomaku Y, Fujii T, Higasa S, Takada K, Yamamoto M, Matsushita S, Tateyama M, Tanabe Y, Mitsuya H, Oka S; Epzicom-Truvada study team; Abacavir/lamivudine versus tenofovir/emtricitabine with atazanavir/ritonavir for treatment-naïve Japanese patients with HIV-1 infection: a randomized multicenter trial. *Intern Med* 52(7): 735-44, 2013
- (64) Shindo T, Nishijima T, Teruya K, Mizushima D, Gatanaga H, Oka S; Combination of high-dose dexamethasone and antiretroviral therapy rapidly improved and induced long-term remission of HIV-related thrombocytopenic purpura. *J Infect Chemother* 19(6): 1170-2, 2013
- (65) Gatanaga H, Hayashida T, Tanuma J, Oka S; Prophylactic effect of antiretroviral therapy on hepatitis B virus infection. *Clin Infect Dis* 56(12): 1812-9, 2013
- (66) Lee JH, Hachiya A, Shin SK, Lee J, Gatanaga H, Oka S, Kirby KA, Ong YT, Sarafianos SG, Folk WR, Yoo W, Hong SP, Kim SO; Restriction fragment mass polymorphism (RFMP) analysis based on MALDI-TOF mass spectrometry for detecting antiretroviral resistance in HIV-1 infected patients. *Clin Microbiol Infect* 19(6): E263-70, 2013
- (67) Nishijima T, Shimbo T, Komatsu H, Takano M, Tanuma J, Tsukada K, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; Urinary beta-2 microglobulin and alpha-1 microglobulin are useful screening markers for tenofovir-induced kidney tubulopathy in patients with HIV-1 infection: a diagnostic accuracy study. *J Infect Chemother* 19(5): 850-7, 2013
- (68) Hamada Y, Nagata N, Honda H, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, Oka S; Idiopathic oropharyngeal and esophageal ulcers related to HIV infection successfully treated with antiretroviral therapy alone. *Intern Med* 52(3): 393-5, 2013
- (69) Yagita Y, Kuse N, Kuroki K, Gatanaga H, Carlson JM, Chikata T, Brumme ZL, Murakoshi H, Akahoshi T, Pfeifer N, Mallal S, John M, Ose T, Matsubara H, Kanda R, Fukunaga Y, Honda K, Kawashima Y, Ariumi Y, Oka S, Maenaka K, Takiguchi M; Distinct HIV-1 escape patterns selected by cytotoxic T cells with identical epitope specificity. *J Virol* 87(4): 2253-63, 2013
- (70) 木村哲 ; HIV 感染血友病等患者の抱える諸問題と患者参加型研究の取り組み . 化学療法の領域 30(12): 2278-2286, 2014
- (71) 木村哲 ; HIV 感染症・AIDS の臨床像と診断 : in 最新医学・別冊 新しい診断と治療の ABC 65, HIV 感染症と AIDS, 第 3 章 診断と症状・合併症 P55-65, 最新医学社, 大阪, 2014
- (72) 松下修三 (司会), 市川誠一, 生島嗣, 木村哲, 荒木順子 ; 座談会 治療が予防になる時代のコミュニティーセンター事業 . HIV 感染症と AIDS の治療 5(2): 4-19, 2014
- (73) 木村哲 ; 「新規感染者ゼロ」をめざして . 公衆衛生情報 44(8): 1, 2014
- (74) Ogishi M, Yotsuyanagi H, Tsutsumi T, Gatanaga H, Ode H, Sugiura W, Moriya K, Oka S, Kimura S, Koike. K; Deconvoluting the composition of low-frequency hepatitis C viral quasispecies: Comparison of genotypes and NS3 resistance-associated variants between HCV/HIV coinfecting hemophiliacs and HCV monoinfected patients in Japan. *Plos One* (in press)
- (75) Eguchi S, Takatsuki M, Soyama A, Hidaka M, Nakao K, Shirasaka T, Yamamoto M, Tachikawa N, Gatanaga H, Kugiyama Y, Yatsushashi H, Ichida T, Kokudo N; Analysis of the Hepatic Functional Reserve, Portal Hypertension, and Prognosis of Patients With Human Immunodeficiency Virus/Hepatitis C Virus Coinfection Through Contaminated Blood Products in Japan. *Transplantation Proceedings* 46: 736-738, 2014
- (76) Eguchi S, Takatsuki M, Kuroki T; Liver transplantation for patients with human immunodeficiency virus and

- hepatitis C virus co-infection: update in 2013. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 21(4): 263-8, 2014
- (77) Takatsuki M, Soyama A, Eguchi S; Liver transplantation for HIV/hepatitis C virus co-infected patients. *Hepatol Res* 44(1): 17-21, 2014
- (78) 夏田孔史, 曾山明彦, 高槻光寿, 山口東平, 虎島泰洋, 北里周, 足立智彦, 黒木保, 市川辰樹, 中尾一彦, 江口晋; HIV/HCV 重複感染患者の肝障害病期診断における acoustic radiation force impulse (ARFI) elastography. *肝臓* 111(4): 737-742, 2014
- (79) Watanabe Y, Yamamoto H, Oikawa R, Toyota M, Yamamoto M, Kokudo N, Tanaka S, Arai S, Yotsuyanagi H, Koike K, Itoh F; DNA methylation at hepatitis B viral integrants is associated with methylation at flanking human genomic sequences. *Genome Res* pii: gr.175240.114, 2015 (Epub ahead of print)
- (80) Yamada N, Shigefuku R, Sugiyama R, Kobayashi M, Ikeda H, Takahashi H, Okuse C, Suzuki M, Itoh F, Yotsuyanagi H, Yasuda K, Moriya K, Koike K, Wakita T, Kato T; Acute hepatitis B of genotype H resulting in persistent infection. *World J Gastroenterol* 20: 3044-9, 2014
- (81) Ikeda K, Izumi N, Tanaka E, Yotsuyanagi H, Takahashi Y, Fukushima J, Kondo F, Fukusato T, Koike K, Hayashi N, Tsubouchi H, Kumada H; Discrimination of fibrotic staging of chronic hepatitis C using multiple fibrotic markers. *Hepatol Res* 44: 1047-55, 2014
- (82) Ito K, Yotsuyanagi H, Yatsushashi H, Karino Y, Takikawa Y, Saito T, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T, Ichida T, Toyoda H, Yoneda M, Mita E, Yamamoto K, Michitaka K, Maeshiro T, Tanuma J, Tanaka Y, Sugiyama M, Murata K, Masaki N, Mizokami M; Japanese AHB Study Group. Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults. *Hepatology* 59: 89-97, 2014
- (83) Morifuji K, Matsumoto T, Kondoh T, Nagae M, Sasaki N, Miyahara H, Honda S, Tanaka G, Moriuchi H, Nakane H; The relationship between physical signs of aging and social functioning in persons with Down syndrome in Japan. *Acta Medica Nagasakiensia* 58: 113-118, 2014
- (84) Iwanaga R, Honda S, Nakane H, Tanaka K, Toeda H, Tanaka G; Pilot study: Efficacy of sensory integration therapy for Japanese children with high-functioning autism spectrum disorder. *Occup Ther Int* 21(1): 4-11, 2014
- (85) 中根秀之; ICD-11 プライマリ・ケア版の動向—新たな診断カテゴリ導入の可能性—. *精神神経学雑誌* 116(1): 61-69, 2014
- (86) 貫井祐子, 中根秀之; うつ病に対するプライマリケアの役割. *精神医学* 56(9): 753-762, 2014
- (87) 中根秀之, 中根允文; 社会精神医学における DSM システム. *臨床精神医学* 43 増刊号: 40-46, 2014
- (88) Kuse N, Akahoshi T, Gatanaga H, Ueno T, Oka S, Takiguchi M; Selection of TI8-8V mutant associated with long-term control of HIV-1 by cross-reactive HLA-B*51:01-restricted cytotoxic T cells. *Journal of Immunology* 193(10): 4814-4822, 2014
- (89) Mizushima D, Tanuma J, Dung T.N, Dung H.N, Trung V.N, Lam T.N, Gatanaga H, Kikuchi Y, Kinh V.N, Oka S; Low body weight and tenofovir use are risk factors for renal dysfunction in Vietnamese HIV-infected patients. A prospective 18-month observation study. *Journal of Infection and Chemotherapy* 20(12): 784-788, 2014
- (90) Nishijima T, Kawasaki Y, Tanaka N, Mizushima D, Aoki T, Watanabe K, Kinai E, Honda H, Yazaki H, Tanuma J, Tsukada K, Teruya K, Kikuchi Y, Gatanaga H, Oka S; Long-term exposure to tenofovir continuously decrease renal function in HIV-1-infected patients with low body weight: results from 10 years of follow-up. *AIDS* 28(13): 1903-1910, 2014
- (91) Nishijima T, Tsuchiya K, Tanaka N, Joya A, Hamada Y, Mizushima D, Aoki T, Watanabe K, Kinai E, Honda H, Yazaki H, Tanuma J, Tsukada K, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S, Gatanaga H; Single-nucleotide polymorphisms in the UDP-glucuronosyltransferase 1A-3' untranslated region are associated with atazanavir-induced nephrolithiasis in patients with HIV-1 infection: a pharmacogenetic study. *Journal of Antimicrobial Chemotherapy* 69(12): 3320-3328, 2014
- (92) Nishijima T, Gatanaga H, Teruya K, Tajima T, Kikuchi Y, Hasuo K, Oka S; Brain magnetic resonance imaging screening is not useful for HIV-1-infected patients without neurological symptoms. *AIDS Research and Human Retroviruses* 30(10): 970-974, 2014
- (93) Watanabe K, Nagata N, Sekine K, Watanabe K, Igari T, Tanuma J, Kikuchi Y, Oka S, Gatanaga H; Asymptomatic intestinal amebiasis in Japanese HIV-1-infected individuals. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene* 91(4): 816-820, 2014
- (94) Ishikane M, Watanabe K, Tsukada K, Nozaki Y, Yanase M, Igari T, Masaki N, Kikuchi Y, Oka S, Gatanaga H; Acute Hepatitis C in HIV-1 Infected Japanese Cohort: Single Center Retrospective Cohort Study. *PLoS One* 9(6):

e100517, 2014

- (95) Sun X, Fujiwara M, Shi Y, Kuse N, Gatanaga H, Appay V, Gao F.G, Oka S, Takiguchi M; Superimposed epitopes restricted by the same HLA molecule drive distinct HIV-specific CD8+ T cell repertoires. *Journal of Immunology* 193(1): 77-84, 2014
- (96) Tsuchiya K, Hayashida T, Hamada A, Kato S, Oka S, Gatanaga H; Low raltegravir concentration in cerebrospinal fluid in patients with ABCG2 genetic variants. *Journal of Acquired Immune Deficiency Syndromes* 66(5): 484-486, 2014
- (97) Tanuma J, Quang M.V, Hachiya A, Joya A, Watanabe K, Gatanaga H, Chau V.V.N, Chinh T.N, Oka S; Low prevalence of transmitted drug resistance of HIV-1 during 2008-2012 antiretroviral therapy scaling up in Southern Vietnam. *Journal of Acquired Immune Deficiency Syndromes* 66(4): 358-364, 2014
- (98) Rahman A.M, Kuse N, Murakoshi H, Chikata T, Gatanaga H, Oka S, Takiguchi M; Raltegravir and elvitegravir-resistance mutation E92Q affects HLA-B*40:02-restricted HIV-1-specific CTL recognition. *Microbes and Infection* 16(5): 434-438, 2014
- (99) Gatanaga H, Nishijima T, Tsukada K, Kikuchi Y, Oka S; Clinical importance of hyper-beta-2-microglobulinuria in patients with HIV-1 infection on tenofovir-containing antiretroviral therapy. *Journal of Acquired Immune Deficiency Syndromes* 65(4): e155-157, 2014
- (100) Chikata T, Carlson M.J, Tamura Y, Borghan A.M, Naruto T, Hashimoto M, Murakoshi H, Le Q.A, Mallal S, John M, Gatanaga H, Oka S, Brumme L.Z, Takiguchi M; Host-specific adaptation of HIV-1 subtype B in the Japanese population. *Journal of Virology* 88(9): 4764-4775, 2014

b. 研究成果刊行物.....624 頁
 ((4) ~ (12) の別刷は H26 総括・分担研究報告書に添付)

- (1) 療養支援冊子・患者セルフチェックシート
- (2) 療養アセスメントシート
- (3) 健康診断データベース 説明書 2013.7.8 version
- (4) 患者が行うチェックチェック
- (5) HIV/HCV 重複感染患者における C 型慢性感染の進行度評価ガイドライン
- (6) 中高年血友病患者の診療にあたって PT・OT のためのハンドブック
- (7) 薬害血友病患者の医療と福祉・介護の連携に関するハンドブック
- (8) 療養先検討シート
- (9) 【福祉・介護】情報収集シート、療養支援アセスメントシート
- (10) 【医療】情報収集シート、療養支援アセスメントシート
- (11) HIV 診療における精神障害 精神障害の診療治療のためのパッケージ
- (12) 薬害血友病患者 診療チェックシート解説書

3) 研究成果の刊行物・別刷

エイズの発見から30年

きむら さとし
木村 哲

東京通信病院 病院長



木村 哲
1967年 東京大学医学部医学科卒業
1973年 米国ペンシルバニア大学医学部に留学
1996年 東京大学医学部感染制御学教授、同第一内科教授
2006年 東京通信病院院長
研究テーマ：内科、HIV感染症、感染制御 趣味：スキー

はじめに

米国で初めてエイズが発見・報告されたのは、今から30年前の1981年のことでした。それまで健康であった若者が免疫不全に陥る、原因不明の奇病とされました。しかし、早くも1983年にはその原因が、今でいうHIVによるものであることが、フランスパスツール研究所のモンテニエ博士のグループのパレスニシ博士により、明らかにされました。この発見により両氏は2008年にノーベル医学生理学賞を授賞されました。

全世界でこれまでに7,000万人程度がHIVに感染したと考えられ、新興感染症の中では最大の広がりを示しています。世界の動向では新規の感染者数は1996年前後で、また、新規エイズ発症者数は2005年前後で頭打ちとなり、いずれもその減少傾向がみられています（UNAIDS: AIDS epidemic update, Dec, 2009）が、日本では相変わらず増加傾向が続いています。エイズが増えている理由は抗体検査を受けている人が年間で感染者のわずか13%程度しかいないためです。HIVの由来

パレスニシ博士による発見の後、1986年に西アフリカ地域で流行しているものが、欧米で分離されたHIVとやや異なるものであることが判明し、それまでのHIVはHIV-1、西アフリカのものはHIV-2と名付けられました。実は、両者とも古くから存在していたのではなく、アフリカの霊長類に感染しているサル免疫不全ウイルス(SIV)が1930年頃に、HIV-1は中央アフリカのチンパンジーから、またHIV-2は西アフリカのスーパーマンガベイから、ヒトに伝播する形に変異したものであることが判りました。

病原微生物の大部分は地球上に人類より古くから存在し、新参者の人間を襲ってきました。薬剤耐性菌の歴史はペニシリン以来の数十年ですが、*mecA* 遺伝子にしても、プラスミッド性の耐性遺伝子にしても、いつどのようにして作

られ、細菌に入り込んだのか、その由来は詳らかではありません。恐らく古くからあったものが選択されてきたのではないのでしょうか。抗菌薬が開発される前から用意されていたのも、不思議です。HIVのようにヒトより遙かに遅れて登場した病原微生物は、新型といわれるインフルエンザウイルス以外には、極めて珍しいのではないのでしょうか。

抗 HIV 療法の歩み

1987年、NIHにおられた満屋裕明先生（現熊本大学教授）は世界で最初の治療薬 AZT を探り当てられました。その後、長期にわたり血中 HIV が抑制できるようになったのは核酸系逆転写酵素阻害薬 2 剤とプロテアーゼ阻害薬または非核酸系逆転写酵素阻害薬を同時併用するレジメが考案されてからのことで、アメリカでは 1995 年から、日本では 1997 年から可能となりました。治療法は日進月歩で、AZT のように日本人に合った服薬量・回数が工夫され、あるいは副作用、服薬個数、服薬回数の少ない薬剤が次々と開発されてきました。

現在の多剤併用抗 HIV 療法では HIV を体内から完全に除去することができず、一生服薬しなければならないため、長期にわたり服薬しやすい 1 日 1 回 (QD) 処方好まれています。最近、インテグラーゼ阻害薬や、侵入阻害薬が開発され、選択肢も広がってきました。治療法が確立される前から HIV 診療を行ってきた者にとりましては、まさに隔世の感があります。

おわりに

まだ、色々な不思議や未知が残っていますが、新しい感染症が判ってから 2 年で原因がわかり、その 4 年後には最初の治療薬が開発されたのは、異例の速さであり、取り敢えずは科学の勝利といえましょう。残念なのは、日本では未だにエイズ発症者数が増え続けていることと、未だに巷でも医療界でも、HIV 感染症・エイズに対する偏見が根強く残っていることです。

INFORMATION

エイズ予防指針の見直しの概要

木村 哲

厚生労働省エイズ予防指針作業班班長
東京通信病院病院長

見直しの背景

後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（エイズ予防指針）はおおむね 5 年ごとに見直すこととされている。前回の 2006 年（平成 18 年）の見直しでは、国との連携のもと自治体が主体的に予防啓発活動を行うなどの役割分担が明確化され、各都道府県に原則 1 か所の「中核拠点病院」を定め、HIV 診療が各都道府県内で完結できる体制作りが提案された。また、国および自治体の施策の成果は定期的に評価されるべきであることが定められた。

しかし、2009 年の「新型インフルエンザ」の流行を機に、厚生労働省と全国の保健所はその対応に追われ、保健所における HIV 抗体検査が制約を受け、また、各種啓発イベントの開催が中止となって、国民の HIV に対する関心が薄れてしまった。その結果、2009 年、2010 年の抗体検査数は 2 年連続で減少し、それに伴って感染者の発見（報告数）が減り、代わりに AIDS 患者が増加するという好ましくない状況になった[※]。また、自治体の施策の評価^{※※}も途中で立ち消えてしまった。

今回の見直し

このような背景のなかで、2010 年 12 月に「エイズ・性感染症ワーキンググループ」会が開かれ、今回の見直し作業がスタートした。エイズとその他の性感染症の予防対策は共通点も多いものの、エイズ特有の問題・課題も多いことから、前回同様、同ワーキンググループの下部組織として「エイズ予防指針作業班」を置き、3 月の東日本大震災をはさみ、前後 9 回にわたり活発な議論がおこなわれた。全体を通じてこれまでの NGO の活動が高く評価され、行政や研究者と連携した NGO の関与の必要性が随所で強調された。特に、個別施策層については、NGO の活動が欠かさない。

今回の改定のポイント(表参照)は、検査・相談の位置づけを強化したことにある。検査が遅れば、AIDS を発症してしまうし、その間に HIV は次々と伝播する。HIV の感染拡大の防止には感染予防の啓発とともに、抗体検査の促進が重要な柱である。これまで「発生の予防及びまん延の防止」のなかに包含されていた

検査・相談関連事項を「検査・相談体制の充実」として独立した新しい章を作り、内容を充実させた。特に、個別施策層、なかでも感染者、患者の増加が著しい MSM (men who have sex with men) と青少年層に対する予防啓発と受検促進が重要であり、NGO との連携が必要とされた。保健所、検査相談所、NGO、医療機関などによる検査機会の拡充が重要である。また、受検への行動変容を促すことと並行して、受検を支える体制も更に整える必要がある。

また、自治体の施策には定量的あるいは定性的目標を定めることが盛り込まれたこと、地域における中核拠点病院の機能強化のために、コーディネイト機能を担う看護師などの配置を促進することが盛り込まれた点も大きい。精神医学的スキルを養うための医療従事者向け研修の必要性、長期療養を支える介護・医療体制の必要性なども盛り込まれた。前回の撤を踏まないために施策のモニタリングをきちんと実施することも確認された。

この改定により新たな感染者・患者が減少し、1 日も早く感染者・患者の方々が安心して生活できる世の中になることを期待する。

表 エイズ予防指針の改定点の骨子

1. 「検査・相談体制の充実」の章を新設

- 検査・相談体制を強化し、予防啓発と共に感染の早期発見により感染者の健康を守る
- 地域の実情に応じ、場所や時間帯など、受検者の利便性に配慮した検査を実施する
- 陽性者を適切な相談と医療に結び付ける
- 陽性者には検査・相談を行動変容を促す機会とする
- 個別施策層(特に、MSM、青少年など)については NGO との連携が重要である
- 感染者・患者が全国水準より高い地域にあっては、定量的あるいは定性的検査・相談目標を設定する

2. 個別施策層に対する施策の実施

- MSM、青少年、コマーシャルセックスワーカー(CSW) などに加え、薬物乱用者も視野に入れる必要がある
- 個別施策層への施策には定量的または定性的施策目標を設定すべきである
- 研究班や NGO と連携した施策が必要である
- 行動変容を起こしやすくする環境を醸成することが必要である
- 差別や偏見をなくす努力を継続する必要がある
- 厚生労働省は個別施策層について文部科学省や法務省など関係機関との連携を強化すべきである

3. 地域における総合的医療提供体制の充実

- エイズ治療・研究開発センター(AIC)、プロダクト拠点病院、中核拠点病院、エイズ治療拠点病院、地域医療機関間の連携体制を強化する
- 長期療養、在宅療養の患者を支える介護・医療体制を整える
- 保健医療サービスおよび福祉サービスの連携を確保する必要がある
- 主要・重篤な合併症、併発症に対する医療連携を強化する必要がある
- 中核拠点病院におけるコーディネイト機能を担う看護師などの配置を推進する
- HIV 感染者の診療を担当する医療従事者には精神科担当者を含め、HIV 感染症や感染者の心理、セクシュアリティ、個別施策層の置かれている環境、人権などに関する研修を実施する

4. 行政、NGO、研究者の連携体制の構築

- 研究成果をその後の研究や事業に生かせるよう、行政は感染者・患者、医療関係者、NGO など定期的に意見交換すべきである
- 個別施策層を対象とする際には、行政、NGO、研究班などの横断的連携が重要である
- 国際的な情報の収集・提供・共有が重要である

5. 国および都道府県の施策のモニタリングと評価

- 都道府県は地域の実情に応じ、普及啓発、検査・相談、医療確保に関し、定量的あるいは定性的施策目標を設定する
- 国は国および都道府県の施策の実施状況をモニタリング・評価し、必要に応じ改善する
- 国および都道府県は NGO との連携が有効なものとなるようその施策内容を評価する

(编者による要約であり、必ずしも条文に忠実な表現はなっておりません)

※ 掲載雑誌：本誌 no.40 p.12-13 「厚生労働省エイズ動向委員会」要約

※※ 掲載雑誌：本誌 no.34 p.3 「自治体のエイズ対策—その指針のための臨床実践視座—」要約

HIV感染症「治療の手引き」〈第15版〉

2011年12月にHIV感染症治療研究会による「HIV感染症「治療の手引き」」が改訂された。今回の改訂は、米国DHHSのHIV感染症治療ガイドライン(2011年10月14日)¹⁾などを踏まえ、さらにはわが国の情報・データも随所に織り込んで更新された。ここでは「治療開始基準」と「初回療法として推奨されるART」を中心に内容を抜粋して紹介する。

なお、HIV感染症治療研究会Web (<http://www.hivjp.org/>) 上では、第15版のPDFファイルとともに、第14版からの全ての改訂・修正箇所を赤字で示した第15版のPDFファイルも公開されている。

アドバイザー：
木村 哲

東京遊倦病院院長
HIV感染症治療研究会 代表幹事

※ Guidelines for the Use of Antiretroviral Agents in HIV-1-Infected Adults and Adolescents.
(<http://aidsinfo.nih.gov/>)

抗HIV療法をいつ開始するか

無症状でもCD4陽性リンパ球数<500/mm³で治療開始が推奨されるだけでなく、妊婦、HIV腎症患者、HBV重複感染者で肝炎治療を必要とする患者では、CD4陽性リンパ球数に拘らず治療開始が推奨される(表1)。

治療開始の早期化によるリスク(副作用によるQOL低下、薬剤耐性出現など)も懸念されるが、治療開始を遅らせることによる予後の悪化が示されている。また近年の抗HIV療法は安全性、効果に優れ、アドヒアランス維持が容易となり、早期からのウイルス抑制でHIV感染による合併症を減らし、生命予後などを改善できることから、治療開始延期と比して早期の治療開始で得られる利益がデメリット(逸失利益)を上回ると考えられるようになってきた。また近年、治療によりウイルスを抑制することで、HIVの二次感染が抑えられるとの報告があり、早期診断・治療開始が重要と強調されている。しかしながら治療開始前には最良のアドヒアランスを維持できるための指導や環境作りが重要である。CD4陽性リンパ球数や血中ウイルス量は複数回の血液検査で確認する必要がある。

ARTによる二次感染予防:HPTN 052について

HPTN 052は、the HIV Prevention Trials Network(HPTN)が片方のみがHIVに感染しているカップルを対象として実施した第Ⅲ相無作為化臨床試験で、HIV感染者に対する抗HIV療法(ART: antiretroviral therapy)が非感染パートナーへの二次感染を防ぐか否かを検討した初めての試験である。本試験には9カ国、13施設の1763組が参加したが、ほとんどがヘテロセクシャルであった。CD4数が250/mm³未満まで減少またはAIDS指標疾患発症してからARTを開始したグループに対して、CD4数が350~550/mm³でARTを直ちに開始し

表1 未治療患者に対する抗HIV療法の開始基準

状態	抗HIV療法開始の推奨度
AIDS発症 CD4<350	ただちに治療開始
CD4が350~500	治療開始を推奨
CD4>500	DHHSガイドライン委員間で、推奨度合いが異なる(委員の50%が開始を好ましいとし、50%が開始は任意とした)
妊婦、HIV腎症、HBV重複感染者で肝炎治療を必要とする患者	治療開始

注) HIV患者の治療における経済的負担軽減のための社会資源として「重度心身障害者医療費助成制度」と「障害者自立支援医療制度」がある。これらの制度の利用のためには身体障害者手帳(免状機能障害)を取得する必要があり、その手帳の等級により助成の範囲や受けられるサービスの内容が異なる。また、治療開始時のCD4陽性リンパ球数の値によっては助成制度が適用されない場合もある。

たグループではパートナーへの感染が96%減少していた¹⁾。この結果は、ARTは感染者のHIV増殖を抑制するだけでなく、パートナーへのHIV二次感染を強力に阻止することを示している。

抗HIV療法をどう行するか

HIV感染症の治療では、抗HIV薬3剤以上を併用した強力な多剤併用療法(ART)を行う。初回治療では、非核酸系逆転写酵素阻害薬(NNRTI)+核酸系逆転写酵素阻害薬(NRTI)、プロテアーゼ阻害薬(PI)+NRTI、あるいはインテグラーゼ阻害薬(INSTI)+NRTIのいずれかの組合せを選択する。初回治療患

者に推奨されるARTの組合せを表2に示す。

キードラッグに関する新しい知見

DRV: DRVは、400mg錠が治療経験を有する患者に1日1回投与(QD)で使用できるようになった。

LPV/RTV: LPV/RTVも、1日2回投与(BID)に加えてQD(4T)で使用できるようになった。

MVC: DHHSガイドラインでは、MVC+AZT/3TCが「選択可能な組合せ」として追加された。これはこのレジメンを用いた無作為化比較試験の結果に基づき、FDA(米食品医薬品局)がMVCの初回治療での使用を承認したことによる(本邦において

表2 初回療法として推奨されるARTと1日投与剤数

- キードラッグ(NNRTI、PIもしくはINSTI)とバックボーン(2-NRTI)から1つずつ選択する。各薬剤の()内の数字は標準的な1日投与剤数(配合剤がある場合はそれを用いた数を記載)であり、必要に応じて増減を検討する。ABC/3TCについてはエブジコム[®](1日1錠)、TDF/FTCについてはツルバダ[®](1日1錠)といった配合剤を用いると、服薬剤数を減らすことが出来る。
- 治療開始に関する患者の考え、アドヒアランス、服薬剤数・服薬頻度・食事などの条件、HIV感染症の重症度、副作用、合併症、妊娠、薬物相互作用などを考慮し、個々の患者に応じて選択する。
- 妊婦に対する抗HIV療法については「治療の手引き」〈第15版〉31ページ参照。

	ベース	キードラッグ	バックボーン	服薬回数	
	NNRTIベース	EFV ¹⁾	+ABC/3TC +TDF/FTC	[QD] (2 or 4) [QD] (2 or 4)	<NNRTI> EFV: ● 妊娠第1期には使用すべきでない。 ● 妊娠の予定がある、あるいは妊娠する可能性のある女性では使用を避ける。
好ましい組合せ	PIベース	DRV ²⁾ +RTV	+ABC/3TC +TDF/FTC	[QD] (4) [QD] (4)	<PI> ATV+RTV: ● オメプラゾール相当で20mg/日を超える量のプロトンポンプ阻害薬を投与中の患者では使用しない。
最も強力で持続的な効果と良好な忍容性・安全性を有し、使いやすいレジメン。	INSTIベース	RAL	+ABC/3TC +TDF/FTC	[BID] (3) [BID] (3)	<NRTI> ABC: ● HLA-B*5701を有する患者には使用すべきでない。 ● 心血管系疾患のリスクの高い患者では注意して使用する。 ● 血中ウイルス量>100,000コピー/mLの患者では、ABC/3TCよりもTDF/TCの方が、ウイルス抑制効果が高いとの報告がある。
その他の好ましい組合せ	PIベース	FPV+RTV	+ABC/3TC +TDF/FTC	[QD or BID] (4 or 5) [QD or BID] (4 or 5)	TDF: ● 腎機能障害リスクの高い合併症・併用薬のある患者、および高齢者では腎機能に注意して使用する。
効果的で忍容性のあるレジメンであるが、好ましい組合せに比較して劣る可能性がある。しかし、ある患者群では好ましい組合せとなる可能性がある。	PIベース	LPV/RTV	+ABC/3TC +TDF/FTC	[QD or BID] (5) [QD or BID] (5)	

1) EFV: 600mg錠の場合は1T、200mg錠の場合は3T 2) ATV: RTV併用時は150mgカプセル2C
3) DRV: QDで投与する場合は、400mg錠2T